



所信表明

4月22日に開かれた平成20年第1回対馬市議会臨時会に出席した財部市長は、就任後初めて所信表明を行い、市政の運営や施策などについて考えかたを述べました。その要旨を掲載します。

協働型市政への改革と創造へ挑戦

私は先月2日の市長選挙におきまして、市民の皆様をはじめ各世代各方面から多大なご支援をいただき、2代目の対馬市長に就任しました。

私は選挙期間中に市民の皆様、閉塞感漂うこの対馬の状況を変えていくため、対馬のありようや行政の進め方を革新し、若いも若きもが一緒に暮らせる持続可能な地域を再生し、新しい対馬を創造して百年後の世代へ引き渡すために一所懸命汗を流しますと訴えて参りました。

今、地方自治体は戦後最大の危機に直面しています。また地方自治そのものも制度疲労を起こしています。市政が元気を失っていくことは対馬そのものが衰退していくことに等しく、そのようになると市民を不幸にするだけでなく多大な迷惑をかけることとなります。

そこで私は、6町合併後10年間優遇措置される地方交付税が減額され始める6年後の平成26年からも市民に迷惑がからぬようにするために、

今この時点からしっかりと将来を見据えた財政運営を行っていく覚悟です。また市民一人当たり160万円を超える総額約600億円超の莫大な借財を抱えたこの対馬市の財政再建に向かつて、市民の皆さんと一緒にの視点に立ち職員自らが痛みや犠牲を恐れず、共に汗を流す行政を早急につくり、市民が要求するもの「や」「こと」「時」を市民が納得する形で市役所が提供できるようにサービスのありようを常に考えながら開発していきます。

市民の方々がこの市役所に託して良かったと思っていただけのように、また地域や明日の対馬を担う人たちが力を取り戻す施策展開を政策の柱におきます。そのためにも私は「市民」と「企業」と「行政」さらに「議会」とが同一方向で連携しあう協働型市政への改革と創造に挑戦し続けます。

働き口の確保

今までもつぱら国に対して過度に依存して行政運営を行ってきたため、国が強力に押し進めている公共事業費の縮

減のありを受け、就労の場が一気に減ったことは市民の皆様も十分に認識されているところであります。

有効求人倍率0.20という求職者5人に1人しか働く場がないこの現状を打破するため、重点項目として企業誘致に積極的に取り組みます。そのためにも行政が持つている情報だけではなく市民の皆様が持つていらつしやる日本中の人的ネットワークからの情報をも一元化するシステムと組織を構築して市政運営に望む考えです。誘致対象企業は対馬の将来を展望して、出来れば対馬の特性を活かした第一次産業の活性化に繋がる関連企業を重点的に誘致したいと考えています。

交流人口の拡大

また交流人口を増やし島内経済に活性化と雇用をもたらす観光関連施設の誘致についても積極的に取り組んでいきます。また内発的な力の醸成も当然必要としますので、起業がしやすいような環境を整備し、市民の皆様が自らの創造力で次なる世界を広げられるように支援していきます。

水産業への支援

この対馬は第一次産業、特に水産業に元気がないと全産業に伝播していきます。漁業従事者が就業しやすい環境をつくりだすのが行政の役割と考えていますので、その点で支援を積極的に行っていくます。燃油問題にとどまらず新たなことに挑戦し取り組もうとする分野にも支援を行いたいと考えています。

財政再建と

継続事業の見直し

市役所内部の経費の再度の見直しを断行し職員自らが出ることは行っていきます。また既存施設の管理経費の圧縮はもとより、施設の休廃止という地域や地区さらに多くの世代にもそれ相応の痛みや犠牲が伴うことにも着手せざるをえないと考えています。

しかし、未来の対馬を担う青少年連達の投資については、あえて聖域を設け公平に行い、痛みや犠牲に大人は耐えられずも子ども達にその思いを強いること無く「人づくり」にしっかりと取り組む考えであります。

また継続事業についてもこ

の時期に真に必要なか否かを見極め、大ナタをふるわねばいけません。また見直しが出来ない段階に至っている事業については、市民にとって利便性や効用が高まるように新たな活用策を早急に検討しお示しします。

例えばCATV事業で設置している光ケーブルの帯域の一部を移動通信事業者に貸し出し、不感地区解消に役立てる等が考えられます。

地域マネージャーの任命と

職員の意識改革の徹底

地域が力を取り戻す施策展開を図るために、私は市役所職員全員を地域マネージャーに任命し担当地域と密な関係を持ちながら、地域や校区単位でのビジョンを市民と共に描きそれを具現化していきま

す。そして、市民が積極的に参画できる環境をつくりながら地域や市民が主体となって活動する対馬づくりに進進します。そのためには島内にとどまらず島外の対馬出身者や対馬をこよなく愛してくださっている人たちとも対馬を浮揚させるため連携を強化していきます。

職員の中には未だ「市民というサービス対象者がいて初めて市役所は存在する」との意識が全体に浸透していないようにありますので、意識改革を徹底して取り組みます。

国際交流

十数年後の世界経済の趨勢に思いをめぐらす時、さらに対馬の地勢的条件を考える時対馬生き残りのための布石として大陸との人的交流は今ままでおり行つて参ります。そしてこれからは新たに第一次産品の活路を大陸に見出すため経済交流に積極的に取り組んでいきます。

最後に

私は過去に対馬を築いた先人達に申し開きができるように、そして百年後の世代にしっかりと自信を持って引き渡せるように、可能思考で考働し、たゆまず市政の創造と革新に挑戦し続けます。対馬の新しい黎明を市民の皆さんと迎えるため走り続けることをお約束しますので、市民の皆様並びに議員諸兄のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副市長・監査委員・教育委員を承認


平成20年第1回対馬市議会臨時会

4月22日に開かれた対馬市議会臨時会では、財部市長の所信表明に続き、「平成20年度一般会計補正予算(第1号)の専決処分の承認を求めることについて」をはじめとする承認議案7件と、「対馬市長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例について」の議案1件に加え、4月30日に任期終了となる対馬市監査委員1名、対馬市教育委員会委員3名、対馬市副市長2名の選任及び任命にかかる同意議案6件が審議され、いずれも可決・承認されました。

このうち対馬市長等の給与の特例に関する条例では、市長の給与を1年間30%削減することが決まりました。

市長ブログ「やすなり茶話」を始めました。

4月末から、財部市長によるブログ「やすなり茶話」が始まりました。「やすなり茶話」には、対馬市ホームページ内の【こちら市長室】からアクセスできます。財部市長の考え方が更新されますので、ぜひご覧下さい。



副市長

齋藤 勝行 (58)

【住所】 厳原町下原

元厳原町役場職員、対馬市役所市民生活部長



大浦 義光 (60)

【住所】 上対馬町河内

元上対馬町役場職員、対馬市役所統括監



監査委員

長岡 豊明 (62)

【住所】 豊玉町仁位

教育委員

河合 徹 (65)

【住所】 厳原町久田道

阿比留 陽子 (50)

【住所】 上対馬町河内

村井 成枝 (67)

【住所】 豊玉町佐保

仁田ジュニアソフトボールクラブ 九州大会で準優勝

3月29日から南九州市知覧（鹿児島県）で開かれた第18回全九州小学生男子ソフトボール大会で、上県町の仁田ジュニアソフトボールクラブが見事準優勝しました。

大会には、九州各県の予選会を勝ち抜いた24チームが参加。長崎県からは仁田ジュニアを含め3チームが出場し、2回戦から出場した仁田ジュニアは、四本松ソフト子供会（宮崎）に7対0、小倉第二ジュニアソフト（福岡）に5対1、吾平ソフトボールスポーツ少年団（鹿児島）に7対2で勝利し決勝に進出。福岡のあやめが丘ウイングスポーツ少年団に惜しくも敗退しましたが、力のあるチームがひしめく九州大会で準優勝の快挙を成し遂げました。仁田ジュニアは昨年8月の長崎県少年ソフトボール大会で、対馬勢として初めて優勝するなど県内でも有数の強豪チーム。キャプテンの春田龍馬くん（11）は「県大会よりレベルが高かったですけど準優勝できて嬉しかった。今後は全国大会出場を目標に頑張ります」と大会を振り返りました。



巖原幼稚園入園式

4月11日、巖原幼稚園で入園式が行われました。今年の入園児数は、年小組に24名、年中組に8名の計32名。今年3月末で北幼稚園が閉園し、巖原幼稚園と統合されたことから入園者数も増加しました。在園児数も昨年度の25名に比べ3倍の75名となり、人数の多い年小組は2クラス編成となりました。式では、新入園児呼名で先生に名前を呼ばれた園児は元気に「ハイッ」と手を上げて返事し、園長先生や来賓者の挨拶もお行儀よく聞いていました。友達がいっぱいできるといいですね。

数々のコンクールやコンテストで好成绩を収め、名実ともに長崎県を代表する吹奏楽部と評価の高い対馬高校吹奏楽部による第8回定期演奏会が3月29日、対馬市交流センターで開催されました。

今回のコンサートは、平成11年に着任して以来、9年間にわたり顧問として部を指導し、まだ未熟だった部の演奏レベルを全国大会に出場するまでに導いた中村明夫先生（35）の最後の演奏会でもあり、会場はほぼ満席になるほど大勢の観客が集まりました。

コンサートは3部構成で、第一部をポップスステージとして今はやりの曲や「となりのトト

対馬高校吹奏楽部 第8回定期演奏会 中村先生最後のステージに歓声



の活動は何よりも聴いて下さる人がいたから頑張つてくれました。これからも彼らを応援してあげてください」と活動を支援してくれた市民に感謝し、今後の協力を呼びかけました。また対馬を離れるに当たり「つらいこともありましたが、対馬の人々の優しさがあったから乗り越えられました。感謝していただきます」とも振り返っていました。

転勤により中村先生は、4月から佐世保の東翔高校に勤務しています。

口」などの曲を演奏し、部員2人が前に出て歌いました。第二部では、今年1月に結成された対馬市民吹奏楽団による初めてのステージで、演歌やビートルズのメドレーを披露。第三部ではクラシカルステージとして、吹奏楽部がバレエ音楽やオペラ曲の「ボーギーとベス」を演奏しました。

ステージで中村先生は「我々の活動は何よりも聴いて下さる人がいたから頑張つてくれました。これからも彼らを応援してあげてください」と活動を支援してくれた市民に感謝し、今後の協力を呼びかけました。また対馬を離れるに当たり「つらいこともありましたが、対馬の人々の優しさがあったから乗り越えられました。感謝していただきます」とも振り返っていました。



中村明夫先生